

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	16
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	4
5．人材の育成と支援	3
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	3
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支	2
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	7
1．一人ひとりの把握	2
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の	2
見直し	
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	15
1．その人らしい暮らしの支援	13
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	41

訪問調査日 調査実施の時間	平成 21年 10月 27日 開始 10時00分 ~ 終了 16時00分
訪問先事業所名 (都道府県)	まいらいふ吉田 _____ (新潟県)
評価調査員の氏名	氏名 <u>山崎 由美</u>
	氏名 <u>星野 久美子</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>中野 直樹</u> ヒアリングを行った職員数 (5)人

項目番号について
外部評価は41項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
[取り組みを期待したい項目]
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。
[取り組みを期待したい内容]
「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

評価確定日 平成21年11月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1571300449
法人名	社会福祉法人遊生会
事業所名	まいらいふ吉田
所在地 (電話番号)	新潟県燕市吉田旭町4丁目5番21号 (電話) 0256-93-2555
評価機関名	特定非営利活動法人 ウェルフェア普及協会
所在地	新潟県三条市東三条1丁目6番14号
訪問調査日	平成21年10月27日

【情報提供票より】(21年9月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(9月19日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	77 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立吉田病院 亀倉歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成17年地域に密着した高齢者介護施設を展開する法人が最初に開設したグループホームである。今年度法人内のグループホームは3つとなっている。JR越後線吉田駅より徒歩約5分、市街地の中心部、住宅街の一角に位置している。国道116号が近くを通り、スーパーや商店も近く、利便性は良い。向かいには児童公園に面しており、日常的に自然豊かな公園でつろいだり、地域住民と交流する等恵まれた環境にある。以前は歯科医院であった鉄筋4階建てを改修し、1・2階を居室やフロア等生活スペースとして使用している。理念に沿った「地域に密着した安心した暮らし」ができるよう、毎日のように地域の方と触れ合う機会を持ち、笑顔をもっとに取り組んでいる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	先回の評価結果を受け、運営推進会議等で報告し話し合い「良いホームにしたい」思いは強いが、具体案の検討や実践に繋げる為の意識的・計画的な取り組みには至っていない。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は管理者が作成し、まとめている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、利用者・家族を含めたメンバーで開催し、利用者の発言場面も増えている。ホームの現状報告し、緊急時の地域との協力体制や広報の仕方を話し合う等、地域とのかかわり方を話し合う貴重な機会とし意見をサービス向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱を設置しているが、面会時や運営推進会議で直接話される方が多い。担当職員が中心に積極的に声かけし、気軽に面会に来たり、相談しやすい雰囲気づくりに配慮している。男性利用者が楽しめる工夫がほしいという意見から将棋セットを購入し、運営に反映させた例がある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域行事の誘いが多く積極的に参加し、日常的にも散歩・買い物・向かいの公園等で地域の一員として交流している。ホームの年間行事やカラオケ・アコーディオン演奏のボランティア行事も多い。気軽に行き来できるホームを目指し更なる交流に取り組んでいる。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民との交流を重視し、地域密着型サービスの役割を反映した理念、「住み慣れた地域での笑顔のある生活、安全・安心で尊厳のある生活、生きがいのある自立した生活を支えること」を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関等目に付く所に理念を掲示している。月1回のミーティング時に理念に対する思いや方針に触れ話し合い、職員が地域密着型サービス事業所の役割を意識して、日々のケアで共有できるよう取り組んでいる。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	面会時や広報誌で伝えたり、運営推進会議・地域行事参加時・回覧版にて、地域で暮らすことの大切さをアピールした理念を理解してもらえよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事の誘いが多く積極的に参加し、日常的にも散歩・買い物・向かいの公園等で地域の一員として交流している。ホームの年間行事やカラオケ・アコーディオン演奏のボランティア行事も多い。気軽に行き来できるホームを目指し更なる交流に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	先回の評価結果を受け、運営推進会議等で報告し話し合い「良いホームにしたい」思いは強いが、具体案の検討や実践に繋がる為の意識的な取り組みには至っていない。今回の自己評価は管理者が作成しまとめている。		年1回の評価のねらいや活用方法を全職員で検討し、意識を合わせ改善に向けた取り組みを計画的・継続的に行い、ホームの質の確保や向上に活かしていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、利用者・家族を含めたメンバーで開催し、利用者の発言場面も増えている。ホームの現状報告し、緊急時の地域との協力体制等、地域とのかかわり方を話し合う貴重な機会とし意見をサービス向上に活かしている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回管理者は市の担当者に運営や現場の実情を報告している。運営者も行き来する機会をもち、意見をもちらう等連携してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は日々のケアで、虐待が見過ごされることがないように注意し合い防止に努めている。ミーティング等で話し合い、事例を挙げる等学ぶ機会を持ち取り組んでいる。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や受診同行時に直接暮らしぶりを伝えたり、出納帳の確認をもらっている。2ヶ月に1回担当職員による写真付きの手紙や広報誌を送付し、日々の様子や職員異動について、個々にあわせた報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、面会時や運営推進会議で直接話される方が多い。担当職員が中心に積極的に声かけし、気軽に面会に来たり、相談しやすい雰囲気づくりに配慮している。男性利用者が楽しめる工夫がほしいという意見から将棋セットを購入し、運営に反映させている。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は日頃から職員に声をかけ話を聞いている。月1回職員ミーティングを開催し、意見・質問・疑問を話し合い、提案を聞く機会を設け運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今回同法人の事業所新設等で異動があったが、運営者は異動や離職を最小限に抑えるよう努力している。代わる場合は引き継ぎを徹底し、利用者が喪失感を抱かないよう関わり、ダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	各種マニュアルが整備されており、職員が自由に閲覧できる場所に備えている。ミーティング等で話し合い、その都度実践できるよう周知と見直しに努めている。		
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は外部研修に積極的に参加するよう勧め、参考文献を準備し貸し出したり、法人内研修に力を入れることを考えている。ホーム内では管理者が現場で指導したり、ミーティング時に勉強できるよう努めているが、段階的な育成目標・計画による定期的な学習の機会は無く課題としている。		法人の育成計画から、ホームの段階的な育成目標・計画を立案し、定期的に研修の機会を確保して、職員のスキルアップやサービスの質の向上に繋げることが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に燕地区のグループホーム交流会に出席し、良い点はミーティング時に報告し取り組むようにしている。また、燕市のグループホーム間で交換研修もっており、質の向上に取り組んでいる。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は笑顔の介護をしてほしいとの思いから、現場から離れ1時間の休憩をしっかりとることを指導している。管理者は日頃から疲労や悩みの要因、人間関係に気を配り、話を聞く等環境づくりに取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族と話し合い不安を受け止め、個々に合わせた対応を配慮している。できるだけ事前見学や、一緒にお茶を飲み体験することを勧め、雰囲気や生活を生で感じてもらい、馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の大先輩であり、日々学ぶことが多い。一緒に生活する中で、料理の仕方、子育て、言葉のかけ方等教えてもらったり、夜不安な時に側にいてほしいと話される等、喜怒哀楽を共にし互いに支えあう関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者を思う家族の気持ちは職員も一緒であり、利用者の様子をこまめに伝え、事ある毎に相談し、より良い関係の継続に配慮しながら支援している。来訪時は一緒に過ごせる場面づくりを工夫し、ともに本人を支えていく関係を築いている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制にて個別に話を聴いたり、日々の関わり中、行動・表情より、「何を求めているのか。何が必要か」一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。ミーティング等で話し合い、引継ぎや連絡ノートにて、職員間で情報を共有し、本人本位に検討している。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族と馴染みの関係を築きながら把握に努めている。センター方式を活用し入所時に家族に記入してもらったり、前ケアマネージャー等関係者から話を聴くことにより、日々の暮らしの中でできることが活かせる支援に繋げている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を把握し、担当職員・計画作成担当者が中心に話し合い、有する力が発揮できる本人らしい介護計画の作成に努めている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、担当職員・計画作成担当者が中心となり、計画のモニタリング・評価を行っている。6ヶ月ごとに見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況や要望に応じ、外泊・外出・受診支援等臨機応変に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により、かかりつけ医の受診を家族に依頼している。提携医とは緊急時・夜間の連携体制ができており、必要時往診もあり、適切な医療を受けられるよう支援している。今後法人内新設事業所の看護職員との連携も考慮している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人では「本人、家族の思いを大切に安心・納得した終末期を迎えられるよう最大限の支援を行うこと」としており、今年度は2例の看取りを経験している。契約時や状況の変化にあわせ、本人・家族・医師等関係者と繰り返し話し合い、全員で方針を共有し支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを大切に、さりげない言葉かけや対応を職員間で意識し合い取り組んでいる。個人情報については細心の注意を払い、個人名をイニシャルにする等工夫している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望を尊重し、散歩や買い物、元銀行員の方に計算の依頼、来客者へのお茶出し等、ペース・生活リズム・役割を大切にした個別性のある支援を心がけている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りから、買い物・調理・後片付け等、一人ひとりの有する力を活かし一緒に食事づくりを行っている。畑で収穫した野菜を調理したり、好みのランチョンマットの使用、職員と同じテーブルで談笑しながらの季節感のある食事は楽しみなものとなっている。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレで自立排泄される方が多い。個々の排泄パターンを把握して、羞恥心に配慮したさりげない声かけ・誘導等で、機能低下せず気持ちよく排泄できるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせ、入浴剤を使用したり、唄を歌う等入浴を楽しめるよう支援している。拒否の方には無理強いせず、時間を変更したり、足湯にする等対応を工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理・洗濯・掃除等、本人の生活歴や能力、得意な分野を活かした役割があり、感謝や励ましの言葉をかけ、自信や使命感を感じて笑顔になれる自立支援に心がけている。役割を活かした行事や外出は楽しみ、気晴らしとなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にホーム前の公園に散歩に出たり、近隣の商店街に買い物に行く等、戸外に出かけられるよう支援している。年間行事で外出したり、家族の協力で墓参りやドライブ等、個別の外出も支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや申し送り等で正しく理解し、自覚しない拘束が行われていないか職員間で意識し合い、身体拘束をしないケアに全職員で取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が弊害を理解し、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。また、玄関ドアに鈴をつけて見守りを徹底したり、エレベーターで、1階2階を自由に行き来できるように支援している。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書を記録し、一人ひとりの状態に応じた防止策を検討し対応している。家族への報告はもちろんのこと申し送り・ミーティング時に職員間で防止策を共有し、分析評価している。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、職員の周知に努めているが、先回同様初期対応や応急手当の訓練は定期的に行われていない。		消防署等の救急救命講習の参加や訓練を定期的を実施し、マニュアルの周知徹底を図るとともに、急変・事故発生時の不安材料について具体的な対策を話し合い、全職員が対応できることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、夜間想定避難訓練を行い、毎月「ミニ防災」として、小規模な避難訓練や防火器具の使用法を学習する機会を設けている。日頃の食料品・日用品を備蓄として活用している。地域の人々に防災セットを預け、協力を働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好み、状態、摂取量を把握し、代替食やゼリー食等、量や食事形態を調整している。入浴後や夏季はイオン飲料にて水分確保を行っている。献立は好み・季節感・栄養バランスを考慮し利用者で作成しており、今後法人内の栄養士が確認することを予定している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入口には花や鉢が置いてあり、壁には利用者の写真や手作りの作品が飾られている。玄関やフロアのソファでは独りで過ごしたり、仲の良い者同士でくつろぐスペースを確保し、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談し、ベッドやタンス、テレビ、家族の写真等、馴染みのものを自由に持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。		